

2024 年度関西学院千里国際中等部・高等部 学校評価を終えて

“For education, rapid labour-market transitions have raised questions about how to best anticipate future skill needs and diversify educational pathways to meet the rising demand for high-skilled workers and lifelong learning. Given the rapid pace of change, how to best combine the teaching of specific skills with that of broader competencies needed to continue learning throughout life, including metacognitive skills? How can education systems address both foundational and more complex sets of skills in a way that complements rather than compromises one for the other? And how can the education sector use technologies to optimise its own core processes?” OECD (January 2025) *Trends Shaping Education 2025*

「教育の分野では、急速な労働市場の変化によって、高度なスキルを持つ労働力と生涯学習に対する需要の高まりに対応するために、将来必要になるスキルを予測し、教育の進路を多様化する最善の方法が一体何であるかという疑問を投じています。急速な変化のペースを考えると、特定のスキルの教育と、メタ認知スキルを含む生涯にわたる学習を継続するために必須の広範なコンピテンシーの教育をどのように組み合わせればよいのでしょうか。教育システムは、基礎的なスキルとより複雑なスキルの両方を、一方を妥協するのではなく、他方を補完する形で、どのように扱えば良いのでしょうか。そして、教育機関は、どのようにテクノロジーを使って、自らのコア・プロセスを最適化することができるのでしょうか。」

OECD の最新のレポートに表れている教育への危機感や焦燥感は、実際の学校にいるとほとんど感じることはありません。それほど学校は、物理的にも精神的にも現実の世の中とはかけ離れた一種独特な環境にあります。私たちは、中学生、高校生が近い将来生きていく社会に必要な具体的なスキル、そしてそれらを組み合わせたコンピテンシーを日々の教育活動でどのような方法で、どのような内容を通して育んでいくのか。この議論から出発する必要があるそうです。

未来志向の学校を創出していくことが急務です。

最後に、今年度もご多忙の中、私たちの学校の様子を丁寧にお調べくださったお二人の評価者の先生方に心からお礼を申し上げます。ご指導いただいたことを確実に活かしてまいります。

2025 年 3 月

関西学院千里国際中等部・高等部校長

萩原 伸郎

学 校 評 価

教育理念・使命・目標

二つの学校、一つのミッション Two Schools, One Mission

私たちの学校に通う生徒たちを、「知識と思いやりを持ち、創造力を駆使して世界に貢献する個人」
“Informed, caring, creative individuals contributing to a global community” に育てると
いう使命を掲げている。具体的には、一人ひとりの生徒が

- ・ 自分自身の知識、能力、資質の獲得は常に主体的で意欲的であること。そしてその営みが生涯続くことを認識していること。
- ・ 与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢と習慣を持つこと。
- ・ 明確な Identity(自分らしさ)を持つこと。
- ・ 自身に内在する文化だけでなく、他の文化も同様に認識し共感すること。
- ・ 人々の思考、行動、価値観や物事の多様性を理解し尊重すること。
- ・ 自他の生活や心身の健康、幸福について Empathy 共感や Compassion 深い同情の感情を持って考え行動すること。
- ・ 常に現状を良くするための方策を探り、創造的に解決する習慣を持つこと。
- ・ 自分自身の能力を成長思考でとらえることができるだけでなく、他者の成長も信じていることができること。
- ・ 予想しなかった問題に直面したり継続することが困難な状況になっても、常に可能性を信じ前に進む根気や忍耐力を持つこと。
- ・ あらゆる創造物にたいして真価を理解し感動し、自らも創造に加わること。
- ・ 地域や世界における自分の役割を認識し適切に行動することができること。
- ・ 互いのかかわりを認識し、多言語多文化環境に対応できること。
- ・ リーダーとして、あるいは建設的で生産的なチームの一員として社会や組織の中でやるべきことを認識し自主的に行動することができること。

SOIS の教育活動の核である「5 Respects」“Respect of Self, Respect for Others, Respect for Learning, Respect for the Environment and Respect for Leadership” がこれらの具体的な目標を具現化する際の精神的指針、行動規範として生徒だけでなく教職員の意識の中にも存在している。

2024 年度の評価項目

- 1 関西学院のアイデンティティー共有 「キリスト教主義教育の実践」
- 2 学習活動について 「深い学びのために」
- 3 学校生活について 「一人ひとりを育てる」
- 4 環境と学校文化について 「わたしにとっての SIS」
- 5 コミュニケーション、情報について 「伝えること、伝わること」
- 6 生徒成長指数 「今の自分」

2024 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	関西学院のアイデンティティー共有 【キリスト教主義教育の実践】	自己評価	B
目標	関西学院をより身近に感じる		
具体的な取組の	(具体的な取組の状況)		

状況とその効果 に対する評価	● 関西学院初等部から中等部に 10 名入学。(2023 年度 10 名) ● 関西学院中学部から高等部に 2 名入学。(2023 年度 1 名) ● SOIS7 年生対象のアイスブレイキングキャンプ(4 月)、里山家族キャンプ(7 月)に関西学院千刈キャンプ場を利用。 ● 関西学院大学主催 AI 活用ワークショップに参加。 ● 関西学院大生と SIS 生による小学生対象の AI 活用プログラミングワークショップを SOIS で開催。 ● SIS11 年生が大学ツアーと特別講義に参加。 ● SIS11、12 年生がフィールドスタディーで大学各研究室、図書館を訪問。 ● 関西学院大学の教員による SIS、OIS での特別授業。 ● 夏期休業中に関西学院大学の特別講座に SIS 生が参加。 ● 昨年よりも規模を大きくした KG All Star Camp に SIS 教員と高等部生徒が参加。 ● 関西学院大学同窓会北摂支部を窓口、SIS 生がリーダーとなって関西学院初等部生を対象とする SGD+アートワークショップを SOIS で開催。初等部生 25 名と保護者が参加。 ● 関西学院高等部の選択科目「舞台表現」を SIS 教員が年間を通して担当。 ● 関西学院初等部での学校説明会、初等部生の SIS 訪問会を実施。関西学院中学部での学校説明会を実施。 ● 関西学院の各学校の宗教主事の先生方による学校訪問。 ● 関西学院クリスマスツリー点灯式に SIS12 年生が参列。 ● 関西学院高等部主催『探究の集い』に SIS11 年生がコンテスト部門、ポスター部門に参加。 ● 『関学スポーツ』の定期購読。(SIS 卒業生が部員) ● 関西学院大学体育会学生本部と応援指導部による院内推薦者への説明会開催。 (取組の効果に対する評価) ()内の数字は去年の結果。 ● 関西学院が掲げる「世界市民」を SIS の教育にも敷衍しているという認識度・共感度は高い。生徒 77%(82)、保護者 75%(75)、教員 78%(74) ● 学びたい科目があれば関西学院大学に進学することをすすめている(保護者・教員)、考えている(生徒)かという質問には生徒は 66%(62)、保護者は 68%(65)、教員は 53%(61)が共感した。2024 年度の関西学院大学への進学者は 61%(60)だった。 ● SIS は関西学院の他の学校と連携して学んだり活動したりする機会があるかという質問に対しては生徒 48%(43)、保護者 55%(51)、教員 30%(30)が共感した。
今後の方策	● 関西学院大学や各学校との連携や交流は昨年度と同じレベルで継続した。地理的な距離感を克服する学習・研究・課外活動の交流の機会を探っていきたい。 ● SOIS の行事に関西学院の多くの方々にご参列、ご参加いただいたことは、アイデンティティーの共有を進めるという点で意義があった。SOIS からも積極的に参加する姿勢を継続する。 ● 生徒にボランティア活動などを通して社会や個人に貢献する機会を多く提供していく。

評価項目 【テーマ】	学習活動について 【深い学びのために】	自己評価	A
目標	深い学びに関する実践研究を学校全体で進め、より多くの学習活動に深い学びを実現する。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) - 教科主任のリーダーシップのもとで各教科内での学習内容・方法・評価の実践研究や新しい取り組みが見られた。 - 教育力向上主任のリーダーシップのもと、「学びの深化を目指す『学ぶ組織』への挑戦」を今年度のテーマとして、Idea Forum の時間を通して話し合い、授業観察、学校視察とその報告会など、生産的な研修を継続した。 - 知識、能力、資質の要素として 6 Cs (Character, Citizenship, Collaboration, Communication, Creativity and Critical Thinking) を育むことの必要性が教師間でさらに認識された。 10 月に開催した SOIS Learning Fair には全国から 100 名を超える参加があり、授業参観後の分科会などで参加者との有意義な学び合いができた。入学希望の保護者にも参加の機会を提供した。 - 毎学期ごとに教科担当が学習内容、教材、評価を明記する Course Description は、Portal を通して生徒と保護者に提供され、学習の透明化が定着した。 - 帰国生の学習・生活支援をするブリッジングセンターは意欲的で献身的な教員メンバーに恵まれ、質の高い支援を継続することができた。 - 各学期ごとに保護者の授業参観、秋学期最終日の保護者と教科担当者との面談(7、8 年生)を実施した。 7 年生から 12 年生までの系統的な探究学習を実践した。特に 10、11 年生では生徒の主体的で創造的な取り組みが見られた。 (取組の効果に対する評価) ()内の数字は昨年の結果。 - SIS の学習活動を通して自分の(生徒)、子どもたちの(保護者・教員)知識は広がっているという質問に対して、3 者共通に共感性が高かった。生徒 86%(88)、保護者 84%(82)、教員 95%(83)。 - SIS の学習活動を通して現在と将来の自分に(生徒)子どもたちに(保護者・教員)必要な能力を伸ばしているかという質問に共感性が高かった。生徒 83%(82)、保護者 84%(85)、教員 86%(82)。 - SIS の学習活動には自分が(生徒)、子どもたちが(保護者・教員)夢中になる要素があるという質問にも共感性が高かった。生徒 70%(75)、保護者 79%(76)、教員 83%(74)。		
今後の方策	- 学ぶ学校、学ぶ組織であり続けるために、理想的な教師の学びの場や方法について検討を続ける。 - この学校に通う生徒にとって最適な学習内容・方法・評価についての話し合いや実証研究を続け、SIS スタンドとして共有する仕組みを創る。 6 Cs についての共通理解を深め、教員間の共感性を上げ、学習活動の中で育むことの習慣化を図る。 - 学習活動の中での小さな成功や成果を拾い上げる習慣、それらを讃え、認め合う文化を育む。個別化という観点をさらに広げて、Universal Design for Learning という視点から、すべての生徒に最適な学習を可能にするために障害になっているもの、障害になる可能性があるものを排除するという思想を広める。		

評価項目 【テーマ】	学校生活について 【一人ひとりを育てる】	自己評価	A
目標	成長を見守る仕組みを作り実践する。		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	(具体的な取組の状況) - 学年主任のリーダーシップのもと、学年やホームルームの健全な運営、生徒や保護者との安定したコミュニケーションが今年度も継続された。 - 学年、生徒生活主任、生徒支援チーム、管理職が共同して生徒間の問題解決にあたり、適切に処理をした。 - 個々の生徒の課題については生徒支援チーム(カウンセラー、ブリッジングセンター、特別支援)、学年、生徒生活主任、生活担当教頭が対応し改善につなげた。 2階の普通教室の改装により教室の床面積が拡大し、共有・協働スペースが生まれ、有効に活用されている。 - Two Schools Together の理念をさらに広げる取り組みが実践された。7年生では SOIS としてのキャンプが2回実施され、9年生では SOIS の学年旅行も成功した。3月には8、10年生を対象にする SOIS キャンプが実施され成功を収めた。 - SOIS Festival、Prom、Sports Day、Winter Ball が生徒会の主催のもとに開催され、成功を収めた。 - 学校に来ることや教室に入ることによって課題がある生徒には個別対応が継続された。 - 中等部の生徒どうしの良好な関係が崩れた事案では、学年とカウンセリングチームと生徒生活主任らの連携で丁寧な対応が施された。 - 学校と周辺駅を繋ぐバスの運行スケジュールが変更され下校時に混乱を生じたが、バス会社との交渉により状況は改善された。 (取組の効果に対する評価) ()内の数字は去年の結果。 - 学級担任や教科担任が一人ひとりの生徒の生活や成長の様子を見守る仕組みと習慣があるという質問に対して、3者共通に共感度が良好だった。生徒 70%(70)、保護者 74%(71)、教員 78%(74)。 - 私は(生徒) 子どもたちは(保護者、教員) 先生方や他の人たちと良い人間関係にあるかという質問についても共感度が良好だった。生徒 80%(76)、保護者 79%(77)、教員 97%(91)。 - SIS は様々な行事や文化を通して生徒たちに豊かな学校生活を提供しているという問いに高い評価が出た。生徒 83%(85)、保護者 85%(84)、教員 86%(70)。		
今後の方策	- 生徒が教員と良好な人間関係にある時、生徒は教員に見守られているという認識も持つ。教員全体の共通理解と意識の涵養を広げる。 - 毎朝のホームルームやロングホームルームをより有効に活用するため、学校全体で協議を進める。 - 生徒主体の学校行事に教員がどのように支援をするべきか、Two schools together の理念のもとでキャンプをどのように企画実施するか話し合いを継続する。 - 生徒の Wellbeing の状況を把握し向上するための方策について、学校全体として取り組んで行く。		

評価項目 【テーマ】	環境と学校文化について 【わたしにとっての SIS】	自己評価	A
目標	SIS らしさを追求する。		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	(具体的な取組の状況) - Two Schools Together の理念をさらに広げるための新しい取り組みが学校行事、キャンプ、学習活動の場面で実践された。 2 階の普通教室、生物教室、音楽室が夏に改装され、多様な学習活動を可能にするスペースを創出した。 - 教室や共有スペースの整理整頓を習慣化するために S0IS として Freshen-Up Friday (金曜日の朝のホームルームの時間帯を使って各自が整頓する) を導入。高等部の学年に顕著な成果が見られた。 - 生徒の自主的な活動(スチューデントエージェンシー)の具現化のひとつとして SIS アンバサダーを導入。入学希望者向けのオープンスクールなどの PR イベントで積極的な活躍と予想を超える成果が見られた。 - Sabers (スポーツ系のクラブ活動)を通して国内外のインターナショナルスクールとの対外試合、遠征を実施した。S0IS がホストとしてトーナメントを開催した際には、ホームステイやレセプションなどで保護者からの絶大なサポートをいただいた。 - SISPA の保護者交流行事として大阪リバークルーズ、和菓子教室が開催され互いに親睦を深めた。 - SISPA (保護者会) は OISPTA との協力関係を発展させ、4 月のピクニックや 1 月の防災講演会などを共催した。ネットワーク委員会と学校が協働して、災害時の安否確認の実証実験を行った。 - SISPA と OISPTA 共催のインターナショナルフェアは、新しい企画を採用し昨年よりも大きな規模で 11 月 16 日に開催された。収益金は 406,951 円 (昨年度約 34 万円) (取組の効果に対する評価) ()内の数字は昨年の結果。 - S0IS は生徒に良い環境を提供しているという質問に対しての共感度は生徒 81% (90)、保護者 85% (84)、教員 80% (48) の共感を得た。 - S0IS には良い学校文化があると思うという質問に対しての共感度は生徒 88% (87)、保護者 87% (84)、教員は 86% (69) だった。 - S0IS はさらに良い学校になる努力をしているという問いには生徒 66% (71)、保護者 77% (75)。教員 75% (48) の共感を得た。		
今後の方策	- Two Schools Together の学校文化を豊かにしていくための方法や潜在的な可能性を探り、実践していく。 - SISPA と OISPTA との連携を引き続き学校として支援していく。 - SIS の独自性や多様性にフォーカスした PR マーケティング戦略を継続する。 4 期にわたって実施した改修工事ですべての普通教室が新しく生まれ変わり、協働スペース、掲示エリアが増加した。新しい学習環境を活用した協働的な学習活動を導入して学び方・教え方も改革していく。 5 期以降の改修計画と予算獲得を進める。 - 美しくきれいになった学習環境の状態を維持する方法を協議する。		

評価項目 【テーマ】	コミュニケーション、情報について 【伝えること、伝わること】	自己評価	B
目標	ステークホルダーとどうつながるか。		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	(具体的な取組の状況) ● 昨年度に引き続き、SOISmail アカウントを生徒、保護者、教職員が有効に正しく活用した。Google Workplace の全機能も効果的に活用された。 ● 卒業生の保護者、転退職者の SOISmail アカウントが 2 ヶ月後に削除されることへの混乱は見られなかった。 ● 学校からの連絡・情報は、SIS コミュニティーには毎週金曜日の eNews、教職員へは毎週月曜日の Weekly Update に集約した。各部署からの個別のメールを避けて、これらどちらかの定期便で連絡する習慣が定着した。 ● eNews は毎週金曜日に 1,200 名を超える読者に配信され、今年度も平均 90% 以上のオープン率を達成した。年 6 回実施する編入生入試で合格し入学手続きが完了している保護者の方々へも eNews を配信した。 ● 各学級担任が定期的に生徒や保護者との面談を実施する習慣が定着した。 ● 非常勤講師を含む各教員と管理職との面談は必要な時期に実施した。 ● 2021 年度から校長が保護者会との対応（会議室予約、行事等に関する Q&A、定例会・委員会への出席など）を担当。窓口の一本化が定着し、保護者会との良好な関係を築くことができた。 ● キャンパスツアー、ワークショップ、学校行事の宣伝、募集、参加者管理を Peatix を媒体として実行し、効率性と注目度を上げた。 ● 入学希望者、受験生の要望を受けると、アドミッションズチームが年間を通して個別相談と学校訪問を実施した。 ● 法人の各部署、各学校との連絡、協議はビジネスオフィスや管理職チームが適宜担当した。 (取組の効果に対する評価) () 内の数字は去年の結果。 ● 保護者や生徒が先生や学校と必要な時に的確にコミュニケーションを取ることができる仕組みがあるという質問に対しては生徒 80% (81)、保護者 77% (76)、教員 97% (82) の共感を得た。 ● 必要な情報が適切に伝えられているという質問に対しては生徒 65% (64)、保護者 67% (65)、教員 58% (35) と過半数の共感を得た。		
今後の方策	● SIS のステークホルダーが互いにコミュニケーションをとるための環境は整備されていると判定することができるが、改善されるべき課題として、情報の伝え方、時期、頻度、内容と質などについて検討が必要である。とりわけ生徒や保護者の方々の心理的安定・安心感を保証するために、学校や教職員がどのような関係性を築けば良いのか共通認識を持つ必要がある。 ● 不特定多数の入学希望者、SIS という学校に興味・関心のある人々への情報発信の方法と内容について、実証実験を継続していく。 ● アドミッションズチームが担当するオンライン学校説明会や個別相談などのシステムは今年度も安定して継続され、必要な情報は適切に伝えられている。 ● PR マーケティングチームのサポートを受けて、生徒主体の SIS アンバサダーによる来校者との個人的な接点や情報発信力を積極的に活用していく。		

評価項目 【テーマ】	生徒成長指数 【今の自分】	自己評価	A			
目標	学校生活での充足度、感情の安定度、学習の充実度や成長思考を測定する					
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	生徒成長指数とは					
	・ 生徒成長指数（Student Thriving Index）は、生徒の社会的、感情的、学習、身体的な幸福感を形式的に評価するための資料。Character Lab の創設者兼 CEO である Angela Duckworth（ペンシルベニア大心理学教授）が、研究者のサポートと Character Lab のスクールパートナーからのフィードバックを得てこのツールを開発した。教育関係者や生徒からの意見は、学校生活の改善の過程に生徒の参加を促し、彼らの必要性に沿った内容を作成するために活用されている。					
	評価結果 （数字： 上から 2024 年、2023 年、2022 年、2021 年の％）					
	学校生活での充足度					
		Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree
	あなたはこの学校に合っていると感じますか	47	34	13	3	2
	Do you feel that you are a good fit for this school?	44	35	16	3	1
	SISにはサポートやアドバイスを求めることができる先生方がいますか。	49	37	10	3	1
	Is there an adult at the school you can go to for support and advice?	43	37	17	3	1
	SISにはあなたにいつも最善をつくしてほしいと期待している大人がいますか。	34	36	23	6	1
Are there adults in this school who always want you to do your best?	32	41	21	4	2	
	36	43	16	4	1	
	29	42	19	8	2	
感情の安定度						
	Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree	
最近あなたはどのくらい幸せに感じていますか	39	38	17	4	2	
How happy have you been feeling these days?	35	37	22	5	1	
最近あなたはどのくらいリラックスしていると感じますか	36	35	22	5	2	
How relaxed have you been feeling these days?	29	41	21	6	3	
	26	28	32	11	4	
	24	31	31	9	4	
	24	32	29	12	3	
	22	31	29	12	7	

学習の充実感と成長思考

	Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree
他のことと比較して、教科の学習で成果をあげるのはあなたにとってどのくらい重要ですか	38	41	17	3	1
Compared with other things you do, how important is it to you to do well in your classes?	38	39	20	2	1
他のことと比較して、教科の学習はどのくらい興味深いですか	40	38	16	4	2
Compared to other things you do, how interesting are your classes?	43	37	16	3	1
努力すれば教科の学習で良い結果を出すことができますか（成長思考）	18	39	31	8	4
Do you think that if you work hard you can achieve good results in your studies? (Growth mindset)	19	42	32	5	1
努力すれば教科の学習で良い結果を出すことができますか（成長思考）	18	48	16	5	2
Do you think that if you work hard you can achieve good results in your studies? (Growth mindset)	19	42	32	6	1
努力すれば教科の学習で良い結果を出すことができますか（成長思考）	53	33	13	1	1
Do you think that if you work hard you can achieve good results in your studies? (Growth mindset)	55	33	10	1	1
努力すれば教科の学習で良い結果を出すことができますか（成長思考）	54	34	9	1	2
Do you think that if you work hard you can achieve good results in your studies? (Growth mindset)	52	31	13	5	1

今後の方策

- 4年間の経年結果の動向は大きな変動はなく全体的に定着している。その中で、生徒の幸福感は毎年向上しており、その理由を分析しさらにあげるための工夫を継続する。
- 生徒が他のことと比較すると教科の学習への魅力を強く感じていない現状を把握し、その理由を明らかにする。
- 成長思考を持っている生徒に自己実現の機会を提供し、成果が認められる場を設けると共に、成長思考を持つことができない、あるいは疑いを感じている生徒への支援方法を考察する。一人ひとりの生徒が成長の実感を感じられるような仕組みと成長を支える継続的な支援を続けていく。

総合評価

- 2024 年度も関西学院の共通行事への参加や大学・各学校との直接的な関わりを通して、関西学院のアイデンティティを共有することに効果があった。関西学院大学に進学する生徒が増加していることにもそれが表れている。多様性が豊かで独自性の強い SOIS の環境でどのようなキリスト教主義教育が可能であるか十分な意見交換や話し合いの機会を持つことができなかったことから B 評定とした。
- 毎年総合評価で述べている「この学校組織・共同体を支え、前進していくことに直接関わる教職員の意識と仕事の質が学校の発展の進度・程度と相関関係にあること。そして、優れた学校

とはどのような学校を指すのか、その具体的な事例を全教職員が共有すること、その実現に向けた熱意、使命感を持つこと。さらに小さな成果を全員で認めあい讃えあう文化を創出すること」という専門家意識、目的意識を組織として共有し、いくつもの小さな成果をあげることができた。

- 学校が良い方向へ変化していく、改革されていくことをステークホルダーだけでなく、より広範囲のコミュニティに認識されるような努力を続けた。さらに独特な学校文化の魅力と在校生の個性的な活躍ぶりを SNS など配信することで注目度が向上した。志願者数を例に挙げると、2023 年度は前年度比 21%増、2024 年度は前年度比 13%増、2024 年度一般入試の合格者の歩留率 70%（前年度 52%）という数字にそれらの成果が表れている。
- 生徒が幸福感や充足感、心理的安心感、成長思考を持つことが究極的には深い学びと知的・社会的成長につながることを今年度の評価の中でも確認することができた。教職員各自が日常の振り返りをもとに自主的な研修や実践研究の習慣を持つことを推進していく。
- 今年度もアンケートの提出は任意とし、例年通りの回答率となった。

2024 年度の評価をふまえて 2025 年度に予定している評価項目、テーマ等

- 1 関西学院のアイデンティティ共有 「We are the KG family」
- 2 学習活動について 「現在と将来に必要なコンピテンシーを育む」
- 3 学校生活について 「一人ひとりを育てる」
- 4 環境と学校文化について 「わたしにとっての SIS」
- 5 コミュニケーション、情報について 「伝えること、伝わること」
- 6 生徒成長指数 「今の自分」

第三者評価／学校関係者評価①

千里国際中等部・高等部（SIS）の教育活動の核となる「5 Respects」を様々な教育の機会をとらえて具現化し、生徒のみならず、教員の意識の中に具体的に意識していくための手立てを講じていることが学校評価から随所に見て取ることができました。

<関西学院のアイデンティティ共有>

年を重ねてアイデンティティ共有のための取り組みを深化させてきているのが、各行事などのプログラムから伺えます。「キリスト教主義教育の実践」については、今後、宗教主事が着任して 2025 年度に向けての準備も進んでいることから、関西学院の教育の根幹に関わるキリスト教主義教育への理解が深まっていくことへの大きな期待を抱いています。

<学習活動について>

実践研究のリーダーシップが発揮できる体制を整えられ、そのリーダーシップが実際に発揮され、「学びの深化を目指す『学ぶ組織』への挑戦」が実行に移されています。そして、学習に関する評価結果から生徒・保護者・教員ともに浸透し、実際の「深い学び」につながっていることがよく表れています。特に知識、能力、資質の要素としての 6Cs を育むことの共通理解が深まり、継続的に学び続けるマインド醸成がされていることに敬意を表します。また学習活動の中での成功や成果を互いに讃え、認め合う文化を育もうとしている、その SIS の姿勢にも大変共感します。それが SOIS Learning Fair で強く感じることができました。また、その成果を実際に拝見することもでき、学習の透明化も図られていることもよく理解できました。大きな成果であると考えます。

<学校生活について>

生徒支援チームが機能し、有機的に生徒一人ひとりの生活や成長を見守られているという実感を生徒・保護者ともに感じ取っていることが評価結果から伺えます。それは教員が共通理解のもと、より良き、良好な関係性を構築しているからに他ならないと理解します。

<環境と学校文化について>

教室の改善が図られ、それが完成したことで多様な学習活動が展開できる豊かな空間が創出され、生徒が個々に合わせた学習ができることがより可能になったと、学校を見学し実際に授業を拝見させ

ていただいて強く認識することができました。また、自主的な行動を促し、S I Sらしい文化を育む S I Sアンバサダーの導入は素晴らしいアイデアで、実際生徒たちが自校に誇りをもって生き生きと活動している姿が印象的でした。

<生徒成長指数>

生徒の成長思考を客観的に、形成的に評価する効果的な指数を用いられており、その得られた結果から生徒の学校生活・学習に対する態度・満足度が明確に示され、その結果を踏まえて生徒支援に生かしていこうとされている、この試みを高く評価いたします。生徒一人一人の成長と幸福感向上につながる施策につながることを期待しています。

第三者評価／学校関係者評価②

全体として、千里国際中等部・高等部（SIS）はS0ISの教育活動の核である「5 Respects」を共通の理念、行動規範として、生徒と教職員が一体となって、より良い学校生活、学習環境に取り組んでおられ、生徒の満足度も非常に高く、保護者も学校の方針を理解し、教育活動を支援しておられるという点が大変評価できます。また、昨年度と比較して、アンケート項目における、教員の肯定的な回答率の大幅な増加から、SISの教育方針・氏名・目標などに対する共通理解が更に進み、意識が向上し、意欲的に教育活動に取り組み、指導されているのではないかと拝察します。6つの評価項目において、いずれもSISならではの特筆すべき内容が見られ、学校全体として改善が進み、優れた学校運営と教育がなされていることが見て取れます。

特に、「成長を見守る仕組みを作り実践する」ことに対する評価も高く、評価項目「環境と学校文化について」でSISらしさを追求することを目標に、「生徒に良い環境を提供する」「さらに良い学校になる努力をしている」という問いに対して、昨年度より大幅な伸びが見られています。Two Schools Togetherの理念拡大のために今年度新しい取組がなされたこと、学校の全ての改装が終了し、スペースが創出されたこと、SISアンバサダーを導入されたことなど、様々なこれまでの地道な努力が実り、教員が自信をもって教育活動がなされている証左であり優れた点であります。

学校訪問をして生徒の探究学習の成果発表を聞いたり、生徒や保護者へのアンケートの自由記述、生徒成長指数などから、SISの生徒は学力や英語力のみならず、自律性、積極性、コミュニケーション力、他者への共感や思いやり、自己省察、根気や忍耐力、寛容性、多様な価値観や広い視野といった非認知能力や、自分の学びを計画（予見）し、メタ認知やストラテジーなどを用いて遂行・実行し、取り組みや結果を振り返り次に生かす、といった自己調整能力が育っていることが分かります。

関西学院のアイデンティティーを共有し、大学や初等部などとの連携、ボランティア活動、個性ある仲間との関わりと深い学び、熱心な教員との信頼関係などを通して、年々成長している姿が見れるのは素晴らしいことです。教員や保護者も生徒の主体性を見守り伴奏し、共にWellbeingを感じておられる様子もうかがえます。SIS独自の魅力的なカリキュラムや学校行事、委員会活動やクラブなどを通して個性を育み、自己肯定感や責任感、リーダーシップも育っており、VUCAの時代にGlobal Citizenとして逞しく幸せに生き、キリスト教に根差した関学のモットーであるMastery for Serviceの精神のもと、世界に貢献する人を育て続けていただきたいと願っています。2025年度に予定されている評価項目にもWe are the KG family.とありますが、関学のキリスト教主義の教育の在り方を、学院の他校種との連携もさらに深め、世界のリーダーとなる生徒を育てていただければと思います。

また校長による保護者会との対応、SISコミュニティへのeNewsの発信など、ステークホルダーへのつながりも着実に成果を上げ、入試の志願者増や高い歩留率にも表れています。教職員の自主的な研修や実践研究の習慣も引き続き行われるとのことであり、現代的課題であるAIの活用についても生徒と共に研究や実践をしていかれると良いのではないかと思います。

SISは国際性、独自性、個性が豊かな生徒と教職員、保護者が一体となり6Csを育むことを大切に優れた学校経営、教育活動が行われており、全体的に高く評価します。その一方で多様なステークホルダーに対する情報の伝え方、時期、頻度、内容と質などが課題として挙げられており、次年度更なる改善がなされることを期待しています。